

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2022年9月20日第22号 (通巻28号)
 オリーブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
 facebook:oribunokai



イスラエルによるパレスチナ6 NGO の閉鎖に抗議する。

イスラエル政府は、パレスチナの6 NGO にテロ組織規定をしていたが、8月18日にラマラを襲撃し、6 NGO の事務所を閉鎖し、事務所の機材などを押収した。6団体のうち、UAWC はすでに閉鎖されていた。イスラエル側の口実には、テロ組織に資金を提供しているというものがあった。テロ組織とは、具体的には、PFLP (パレスチナ解放人民戦線) を指している。PFLP がテロ組織といのも、自分たちに敵対するものはテロ組織にするというものあり、PLO までテロ組織としている。

イスラエルの意図は、テロ組織との関係を口実にして、パレスチナの社会的、市民的な人権を守る活動をつぶそうとするものである。さらには、欧州などからの資金援助を断とうするものである。UAWC (農業労働委員会連合) への支援を断つためにイスラエルはオランダ政府に圧力をかけた、その時も、UAWC が PFLP につながっているとした。

閉鎖された団体は、アル・ハーク人権協会、アダミア獄中者支援・人権協会、ビザン研究開発センター、国際児童防衛協会パレスチナ、農業労働委員会連合会、健康労働委員会、パレスチナ女性委員会連合である。

NGO はそれぞれ、人権保護や子ども、公衆衛生、農業、女性への支援などを目的に掲げる組織だった。

国連人権高等弁務官事務所は声明で「イスラエル当局は (NGO への) こうした指定を正当化できる信頼できる証拠を何ら国連に提示していない」と非難。「事務所閉鎖は完全に恣意的に見える」と批判し、指定の取り消しを求めた。

パレスチナ自治政府のシュタイエ首相は記者団に「この NGO はどれも法律に基づく合法的な組織だ」と述べ、閉鎖は無効だと主張した。

米務省のプライス報道官は事務所閉鎖の決定についてイスラエル側に説明を求めていると語った。欧州連合 (EU) は加盟国のうち9カ国がこれまでに、イスラエルの言い分が証拠不足だとして NGO 側への協力を続けると表明していた。

これ以前にも6月9日未明、イスラエル軍は、ヨルダン川西岸の都市ラマラーにある HWC (保険労働委員会) の本部を急襲した。入り口のドアを破壊して押し入り、パソコンやメモリーを押収し、HWC に6カ月間の閉鎖命令を言い渡した。

HWC は、被占領パレスチナ地域の主要な医療の担い手の1つで、病院や医院を運営し、恵まれない人びとや過疎地の人びとに医療を提供してきた。また、新型コロナウイルスとの闘いの最前線に立ち、さまざまな取り組みをしてきた。保健衛生の意識を啓発する活動、公衆衛生上の指導、医療施設での新型コロナ感染患者の対応、過疎地住民の遠隔診療などだ。また、パレスチナの公衆衛生制度の改善に向けた草の根の啓発活動にも取り組んできた。

HWC は、軍事部門を持つパレスチナの政党パレスチナ解放人民戦 (PFLP) 線との関係を疑われ、これまでも、繰り返しイスラエル当局の標的となり、職員が嫌がらせを受けたり拘束されたりしてきた。

イスラエルがこうした NGO に攻撃をしかけるのは、

彼らが言うようにPFLPとの関係ではなく、それぞれのNGOは、国際社会の中で承認され、国際的な支持を得てきたためである。こうした政治的な地位の向上に対して、テロ組織として規定することで、その信用をうしなわせ、孤立させようとしている。

PFLPは、欧米でもテロ組織とされているが、パレスチナにおいては、ファタハ、ハマスにつぐ第三の政治軍事組織であり、歴史的にパレスチナの解放のためにシオニストイスラエルと闘ってきた。イスラエルのテロによって、ガッサン・カナファーニや、アブアリムスタファ

書記長などの指導者が犠牲となってきた。まさにシオニストイスラエルこそがテロ国家である。

そのテロ国家がテロと弾圧とたたかうパレスチナの人権社会団体を弾圧するのをみとめることは、さらにイスラエルのテロを野放しにするものである。

さすがの欧米もシオニストイスラエルによるなりふり構わないパレスチナの市民団体への閉鎖措置を支持していない。

イスラエルは、直ちに閉鎖を解除し、活動の自由を認めよ。



日本の毎日新聞は以下のように伝えている。「パレスチナ自治政府のアッバス議長(ママ)が16日、ドイツ・ベルリンでショルツ首相と会談後、記者会見で「イスラエルが、パレスチナに対してホロコースト(ユダヤ人大量虐殺)を行っている」と発言したことに対し、非難が相次いでいる。イスラエル側は「歴史の改ざんだ」と批判しており、両者の関係は一層悪化しそうだ。

アッバス氏は、記者会見で1972年のミュンヘン・オリンピックでパレスチナ系武装組織がイスラエルの選手らを殺害した事件について問われた際、事件の背景にイスラエルの残虐行為があったと指摘。「47年以降、パレスチナの50の村で50のホロコーストがあった」と述べた。

ナチス・ドイツに約600万人のユダヤ人が虐殺されたホロコーストと比較されたことに、イスラエルは強く反発。パレスチナへの経済緩和を進めようとしているラピド首相は「途方もないうそだ。歴史が彼を許さないだろう」と非難した。会見でアッバス氏の発言に反論しなかったショルツ氏にはドイツ国内から批判が噴出。ショルツ氏は17日、ツイッターで「ドイツ人にとってホロコーストを引き合いに出すことは容認できない」と投稿した。

アッバス氏は17日、発言は「ホロコーストの特異性を否定するものではない」と釈明する声明を出した。【エルサレム三木幸治】

発言への批判だけでなく、ドイツ警察は、捜査に乗り出したという。これは、さすがにドイツの外務省が否定した・以下は産経新聞の記事である。

「ドイツの警察当局は19日、パレスチナ自治政府のアッバス議長(ママ)が16日にショルツ首相とベルリンで記者会見した際、「イスラエルはパレスチナにホロコーストを行った」と発言したことについて、憎悪を扇動した疑いで捜査を始めたと明らかにした。ホロコーストはナチス・ドイツによるユダヤ人の大量虐殺を指す言葉で、第2次大戦終結までに約600万人が殺害されたとされる。

警察が刑事告発を受けたという。地元メディアは、アッバス氏が公式訪問中だったため、外交特権で訴追を免除されるとのドイツ外務省の見方を伝えた。」

こうしたイスラエル、ドイツの批難とは対照的にパレスチナ内部では、アッバスに批判的な勢力を含めて、アッバスの発言を支持した。

アッバス大統領の発言は、歴史的なユダヤ人へのホロコーストを否定したものではなく、欧州でのユダヤ人への虐殺の中から生まれたイスラエルが、それと同じことをパレスチナに行っていることを述べたものであり、ホロコーストを実践したドイツがいかに、シオニストの言いなりかを示すものである。

パレスチナでは、イスラエルがホロコーストを繰り返し、パレスチナ人に対する民族浄化を進めていることは明確である。あらゆる手段をもって、パレスチナ人の土地と生命を奪い、その上にイスラエルを拡大しようとしている。それを批判できないドイツこそが、再びホロコーストに加担しているといえる。



残忍なテロリストの侵略



と団結した勇敢な抵抗

投稿: 2022年08月06日 | 22:50 (PFLPのホームページより)

ガザ地区に対するイスラエルによって開始された新たな侵略は、民政大臣であり、占領軍の中からのこれまでの政府首脳とは異なるラピドが、極右のイスラエル政府の首相を引き継ぐ時、まるでこの犯罪的侵略で彼は彼の能力と血気、そして、過激さと攻撃性をもつイスラエル社会の右翼反対派の支持を得るためのものである

何の理由もなくイスラエルが残忍な侵略を行い、多くの殉教者が出た。その最たるものが、イスラム聖戦運動所属のサラヤ・アル・クッズの軍事部門の最も著名な指導者であるタイシル・アル・ジャバリ司令官である。殉教者の中には、7歳の少女と23歳の女性も含まれている...

正当な理由のない残忍な攻撃は、レジスタンスがエジプトの仲介と後援によって最近達成された静穏状態を維持しているにもかかわらず、壊滅的な第5次戦争に発展する可能性があり、エジプトの治安代表団は、静穏状態の更新に努めることによって、エスカレーションを止めるためにテルアビブに急行させた... この侵略は、我々の土地を篡奪し、我々の民族を追い出した人種差別的で

攻撃的なシオニストとの間の恒久的な条件としての残忍な武力衝突のなかで起こっている。このような状況の中でレジスタンスは、軍事部門の合同会議の常設会議を通じて、団結してこの残忍な侵略に立ち向かっている。

シオニストは、占領下のヨルダン川西岸、特にジェニンとそのキャンプにおける抵抗運動の責任に加え、ガザ地区の平穏な状況を妨害する背後にいと非難するイスラム聖戦運動の特定の試みに成功することはないだろう。

このような状況下で求められているのは、言葉ではなく、行為によって、抵抗の地で民族の統一を達成し、占領下のヨルダン川西岸、収容所、都市、村での抵抗活動に火をつけることである。イスラエルの強硬さと、既存の戦略的同盟条約に基づく米国の立場によって、政治的・交渉的行動が行き詰まった後では、もはやわが国民が抵抗するしかないのだ。

「エルサレムの剣の闘い」の放棄と 勝利の可能性

投稿:2022年8月15日 | 20:15 (PFLPのホームページよ)

獄中者ムンサー・ハラフ・ムフラジ

(1)

あらゆる戦闘や戦争を管理し、そこで成果をあげるために最も重要な要素は、リーダーシップの要素で、おそらく、目標の設定者、戦略の立案者としてのと、勝利のために必要なものと、それを提供するために利用できる可能性との間のギャップを埋めることであろう。第二の要素は、統一的なインキュベータープロジェクト(闘争を育成・発展させるためのフカキ孵化器)である。つまり、パレスチナ人の重要な要素を強調するために、特に能力のギャップを埋めるための現在の可能性がない場合、この戦いとその必要性に関する大衆と政治のコンセンサスが存在することである。この課題は、高い比類のない不動心、覚悟、準備、犠牲を持ったパレスチナ人にとって代わられるかもしれないところの人民の世界最大の経験の一つであり、それが主な力因子となり、強さの唯一のポイントになる。占領軍が長年にわたって破壊してきたものであり、時には狡猾に、時には裏切り、清算事業や一見だけの経済発展、正常化・和平協定によるごまかし、そして時にはこの要素を叩き壊そうと、直接的で拡張した暴力を用い、それに頼ることによって支えている。

これは現在すべてのパレスチナの舞台、特にガザで顕著だが、敵は拡張した力とその要素を用い、穏やかさを贈り物や善意としてのいくつかの特権と引き替えにし民意をなびかせようとするものである。また、あらゆる戦闘的幹部に対して、幹部とその家族に対する直接的な暴力として、不当な逮捕を繰り返して暴力を行使している。また、ジェニン、ナブルス、ヘブロン、そしてパレスチナのすべての都市におけるように、あらゆる現場指導者の暗殺という過剰な暴力と手段に訴えている。一方、占領に反対する闘争思想を崩壊させるために、彼らの闘争と組織的イニシアチブを破壊し、逮捕し、歪んだ経験にさらすことによって、1948年の土地における占領の思想で、危機的でない矛盾した青年指導者のパターンを歪めることを試みた。

集団レベルに関しては、占領国は、パレスチナ人民とそ

の政治的・現場的指導者の団結を破壊し、闘争努力を破壊・断片化して、対処・統制しやすくし、占領国の治安・軍事界の一部がいまだに「芝刈り」と呼ぶオープンバトルを通じて、戦略的指導勢力を転換するには弱すぎ、指導幹部やその継続性・連続性・現象化などを生み出すあらゆる試みが断たれるようその実践力を強めている。

その最後の戦いで、占領国は、「エルサレムの剣の戦い」(注1)として高揚した現場部隊を破壊するために、戦いからハマスを中立化し、そしてイスラムジハードを、標的とすることによって、統一戦の思想、または諸領域、または他のアイデアを破壊することに成功した。また、戦闘終了の翌日にナブルスでイブラヒム・アル・ナブルシ(注2)を暗殺し、ガザの戦いはナブルスの戦いではない、ジェニンの戦いはヘブロンでの戦いではない、というように、分断した戦いや舞台の状況を作り出すことにも手を染めた。戦いは、指導者なき人々によって運営されている西岸地区のわが民族に対して占領軍が開いたものである。むしろ、ヨルダン川西岸地区の指導者は、わが民族の闘争に背を向け、例えばアラブの指導者のように、あるいは南アフリカの指導者のように、あるいは非難し弾劾する他の国々のように、非難し弾劾することで満足している。一方占領軍は、ガザと自治政府の並列指導に焦点を当て、結果としていくつかの分裂した指導、ハマスの指導部、ジハードの指導部を焦点化することでパレスチナの抵抗を弱体化させている。または「エルサレムの剣の戦い」で始まった勝利の要因や強さの要素に焦点を当てた。

注1 「エルサレムの剣のたたかい」は、昨年5月、エルサレムでのイスラエル軍の弾圧と民衆の戦いを背景に、ガザのハマスを中心とする抵抗勢力が、テルアビブを含む、イスラエル内に対して、大量のロケット攻撃を行いイスラエルに恐怖を与え、パレスチナの闘いの新たな地平として確認された。

注2 8月9日、早朝にイスラエル軍の精鋭がナブルスの旧市街にある一軒の家を包囲し、ファタハ系軍事組織「アル・アクサ殉教者旅団」のイブラヒム・アル・ナブルシ氏と、「Islam Sabbouh」と名付けられたグループの少なくとも1人のメンバーを追い詰めた際に起きた。

ナブルシ氏が降伏要求を拒否したのちにイスラエル軍が発砲し、対装甲ミサイル「マタドール」で家を爆撃し、中にいた男性らを殺害した。もう一人のパレスチナ人、フセイン・ジャマル・タハさん(16)も殺害された。

(2)

－「エルサレムの剣の戦い」…。

「エルサレムの剣の戦い」が形成され、敵は、戦術的勝利のための可能性、要因や要素の存在を構築したり、確立するための歴史的機会につながった決定的瞬間を考慮していないところから形成された。しかし残念ながら、この瞬間が迂回され、さらにそれが本当かもしれないという印象を与えたようなそのすべての能力や成果が破壊された。「エルサレムの剣」が、その持ち主の手から落ちてしまったと。

思い出されるように、「エルサレムの剣の戦い」は、統一主導の要素である戦士ムハンマド・アルダイフ（注3）、と団結を強調しています。彼にとって「エルサレムの剣の戦い」は、隊列を進めるために作り出され、闘いの連続した段階の変数を明確にすることによって現場領域から政治的な領域に移動し、決定的な条件とゲームのルールを規定すること、その保証人になるためのイニシアチブを提出するものであった。ハマスが、ガザの政治関係者を通じて、現場で忠誠を誓わなかったので、成功しなかった「シンワル」（注4）を試したことは事実であり、第二に、彼の戦いの後のスピーチは、弱さと考えられていたアブマゼンに旗を返し、内部紛争の文脈で圧力に使用されており、民族の大義のレベルを高めるためにされていません。

「エルサレムの剣の闘い」は、勝利の要因を強化・蓄積するために労力を投入し、さらに、この戦いは、抵抗勢力がパレスチナの政治基盤に登りつめたという点で、パレスチナの政治レベルの変化を確立し、敵との衝突のレベルでのパワーバランスと交戦ルールの実質的变化に貢献した。

注3モハメッド・ディーフ（アラビア語： ；1965年ハン ユーニス生まれ）、本名モハメッド ディアブ イブラヒム アル マスリ [2] は、パレスチナ人の参謀長であり、ハマスの軍事組織イッズアッディン アル カッサム旅団の最高軍事司令官です。

注4ヤヒア・シンワル（アラビア語： 、1962年生まれ、Yehya Al-Sinwar [1]とも表記、Yehiya SinwarまたはYehiyeh Sinwarとも表記）は、ガザ地区のハマスの現パレスチナ指導者で、2017年2月にイスマイル・ハニエから引継ぎを受けた。ハマスの治安組織の共同創設者の一人である。ハマス内で2番目に権力を持つ人物である】。

エルサレムの剣の戦いの最も重要な成果は、おそらく次の点に代表される。

1. . パレスチナの領域を統一し、階級と地理を統一し、戦い（エルサレム）のタイトルの下に、抵抗勢力がそのイニシアチブを取ること。

2. . 共同作戦室を形成し、歴史的なパレスチナの地理全体にわたるあらゆる出来事や現場での展開にレジスタンスをリンクさせたこと。

3. 結束と民族の統一を回復するために、共同とその上に成り立つ構造を形成した。

4. 軍事的に、レジスタンスが戦略的防衛から戦略的バランスに移行した点を強調し、あるいは移行させたが、これはシオニストによって初めて表明された。

5. オスロを越える統一的なパレスチナ言説の出発点となり、この屈服的なプロジェクトに厳しい打撃を与えるという方向性が強まったこと。

その他多くの分野と政治的成果に加え、しかしこれらすべては民族の団結を必要とし、指導者レベルを超えた勝利の雰囲気を利用して指導者レベルを明確にするものであった。指導部レベルがレジスタンスの領域に戻り、2007年以来詰まっているガザの瓶からレジスタンスを取り除く可能性に賭けたが、分裂のために失敗した。その意味で、エルサレムの剣の戦いは、パレスチナの民族プロジェクト全体における一里塚であり、そのタイミング、タイトル、戦術、レトリック、時間において成功を収めたといえる。おそらく、それはガザを通して、パレスチナ全体の地勢に向かったとすることができるだろう。

(3)

エルサレムの剣がその持ち主の手から落ちたと言うのは、どうしたことだろうか。

エルサレムの剣を担い、その功績で戦いの先鋒とさえ考えられていたハマスの現場と政治行動全般の観察者は、ハマスの指導者がそれを蓄積する機会以上のものを逃したとして現場の全戦闘員に謝罪しつつ、剣を落としたこと、あるいは剣を担いだ手が弱体化したことを認識している。他のすべての政治的・抵抗的勢力は、エルサレムの剣の瞬間を重ね、オスロ・プロジェクトに最後の決定的な一撃を加えることによって、その成果を政治的プロジェクトに変えることによって、現場と政治的成果を強化・深化させ、政治プラットフォームに上る可能性を持っているのだ。加えて、現場のパフォーマンスは、参加領域の拡大ではなく、ガザを維持し、その現実を管理するために尊ばれるようになった。ガザの現実と生活条件を改善することが緊急の課題であることは事実だが、それは決してレジスタンスの肩にかかるものではなく、レジスタンスがこの課題に没頭し、エネルギーを消費する必要はなかった。いずれにしても、集団的レジスタンスがプロジェクトを蓄積し採用しなければならないいくつか

の瞬間が、以下のような形で過ぎていった。

1. 代替案ではなく、パレスチナ解放機構に参入できる指導者を提示し、三角形（その底辺は抵抗、そのピラミッドの頂点はPLOに代表される指導者）に基づいてそれを再生化し、勝利のパートナーとして現在の指導者を再生させないようにすることである。
2. 労働者、境界の開放、金品の導入など、復興や生活改善に関わる二次的な協定を結ばないこと。それは、生活条件の改善と引き換えに、戦いの成果を放棄していると思なされたからで、占領軍がレジスタンスを引きずり込んでいるのは、この領域である。戦闘のエスカレートはガザの閉鎖 その包囲網の強化に対応し、平静さは獄中者の闘いからの撤退やまたは交換交渉による援助のペースアップに対応する。
3. ハマスと抵抗勢力は、領域の統一、また領域の分野と政治的表現の問題に真剣に戦略的に対処しなかった、1948年領内部は炎上し、ピーク時はネゲブであり、エルサレムのように、彼らの勝利として剣を掲げる価値があったが、これは起こらなかった。闘いが48年領内の人々だけになった。
4. オスロの影響は、民族主義的や党派的な言説によってまぬがれている。地理的、人的、社会的、政治的、党派的な境界線がヨルダン川西岸とガザであることから、ヨルダン川西岸とガザにいる私たちの人々について、あるいはプロジェクトについてまだ語られている。
5. どの政党も、すべての居住地にいるわが民族を集める統一的な組織編成を再構築するイニシアティブをとっていない。
6. 抵抗勢力は、翌年、アル・アクサとその襲撃、そしてすべてのパレスチナの都市で起こったこと、今も起こっていることと同じ出来事が出現しているときに、剣を使わなかった。
7. ガザのジハード運動は、別のタイトルで、別のパフォーマンスで戦いを挑み、ハマスが沈黙でそれに応えた。誰が正しいか間違っているかはともかく、浮かび上がったのは、ガザそのもの、レジスタンスとその対応策、そしてエルサレムの剣の戦いで達成されたすべてが破壊された、つまり剣がその持ち主の手から落ちたということである。

最後に、おそらく私たちが提示したものは厳しい批判の試みであろうが、批判の厳しさは、それに応えるためではなく、パフォーマンスを強固にするためである。私たちは、ガザの地勢とその住民が、政治的、軍事的、財政的な抱擁なしに、特に包囲と分断の影響を考慮して、戦

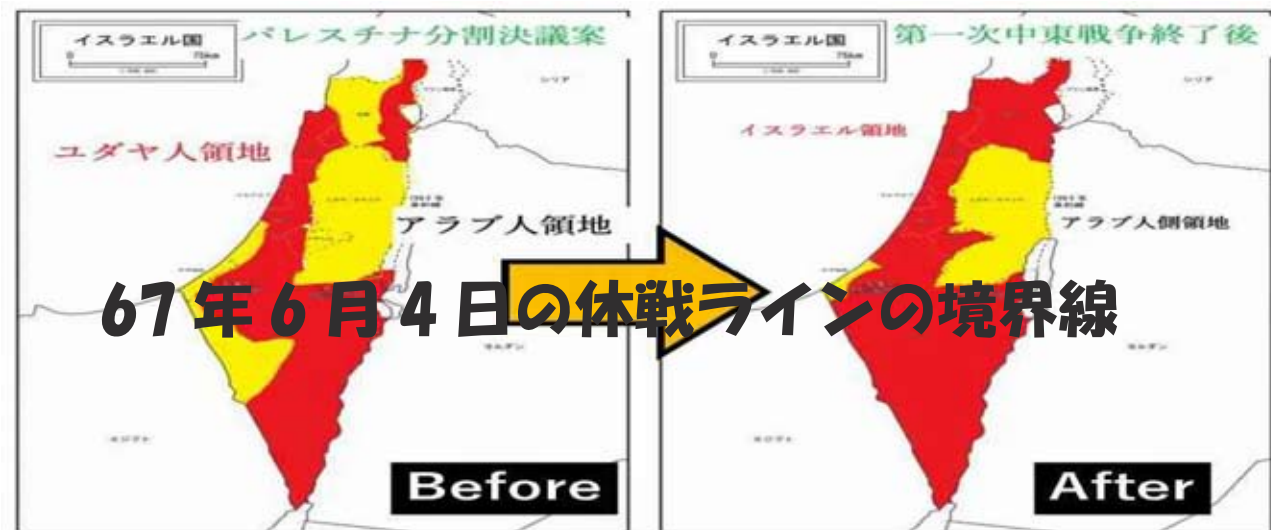
いの負担を単独で負いきれないことを知っている。おそらくハマスが、指導者プロジェクトやその刷新、あるいはPLOの主要プロジェクトに基づくその再編成を真剣に受け止めなかったことを付け加えてもよいだろう。それは、パレスチナ指導部の舵取りをするための、知的にも、思想的にも、政治的にも準備ができていないのかもしれない。つまり、民族統合のプロジェクトに取り組み、PLOを改革し、このプロジェクトを戦術的なプロジェクトとしてではなく、優先的にとらえなければならないということである。

(4)

イブラヒム・アル=ナブルシ

そして、少なくとも、殉教者の戦士イブラヒム・アル=ナブルシが、19歳を過ぎていないときに、現場の指導者として現れ、さらに、他国に恐れられた状況に直面していることは、パレスチナ人の誇りであり、この血と民族統一の戒めを直ちに尊重せよということである。シオニスト軍は、軍隊と対峙したその19歳に恥じるべきである。イブラヒムは、その目標と戦術における明確で効果的な抵抗戦略の枠組みの中で、団結した指導者と人々によって受け入れられる現象に変わるならば、勝利のための最も重要な手段の一つである。

イブラヒムは、占領に対する真の勝利の顔であり、彼は、自分自身と自分の軍を築いたビジョンを深い裂け目に橋渡ししたのである。シオニスト軍がナブルシとの対決で破壊した壁は、イブラヒムとパレスチナ人のすべての若い闘士が占領の闇から自由の光に出るための分離壁なのである。イブラヒムが殉教者として立ち上がる瞬間、積み重なる勝利の瞬間が現れた……。私たちの政治勢力は、イブラヒムやイブラヒムのような何百、何千もの若者が形成した勝利を蓄積し、さらには刈り取るまで、自らを準備し、団結し、特徴を描き、人々に示すしかない。19歳以下かそれ以上の若者は、検問所で殉教する必要はないのだ。むしろ、彼らは、彼らの都市、村、山で人々を強化し、占領との公然とした対決に備えて、アブラハム（協定）が広がる現象に対して武器を取らなければならない。そして、抵抗勢力がガザの瓶の外に広がり、勝利の要因が統合され、さらに統合された戦場となるように、。



投稿：2022年8月16日 | 08:02 (PFLPのホームページより)

ムハマド・ジャブル・アルリファイ

1948年5月の戦争（第一次中東戦争）で、パレスチナのアラブ軍がシオニスト武装集団の手によって敗北し、47年に出された国連分割決議に基づき、シオニスト主体の国家が正式に宣言され、国連によって承認された後、ロードス島でアラブ周辺諸国と（イスラエルとの）間交渉が行われた。その結果、当時「休戦協定」として知られていた安全保障協定に調印した。この協定では、停戦と6月4日線の採択が、侵略的な篡奪者とアラブ諸国を分ける（政治）国境であるとしている。

スイスのパーゼル市で開催された第1回シオニスト会議でオーストリア系ユダヤ人ジャーナリストのセオドア・ヘルツルが発表したように、休戦協定の調印によって、人種差別的なシオニズム計画の実現の第一段階が終了した。この日付は、周囲からの社会的孤立と非ユダヤ人、つまりユダヤ人以外への憎悪を特徴とするユダヤ人ゲットーに敵対する一部のヨーロッパ政界の嘲笑の的となった。

アラブ側では、この声明は関心を持たれなかったが、政治的宗教的封建主義の勢力と形成され始めたパレスチナ・ブルジョアジーの上層部が主導するパレスチナ民族運動の界限でも、イギリスの植民地主義の利益と結びついた機能的役割から支配者たちが関心を示さなかったため、軽蔑をもって受け止められることになった。大西洋から湾岸に至るアラブ大衆の気持ちを持っていた民族的・宗教的感情の圧力のもとに、アラブ人たちは、自国の軍隊と志願兵をパレスチナに送り込んだ。

休戦協定の調印とともに、パレスチナ人の喪失とディアスポラの段階が始まり、それとともに、パレスチナ人レジスタンスの武装解除が始まり、そのシオニスト実体を取り巻くすべてのアラブの前線で停戦となり、した

がって、パレスチナ問題は、難民がヨルダン、シリア、レバノン、そして、西岸とガザのキャンプに分散したパレスチナ人に生じた人間的根こそぎのために、人道的性質の争われた政治問題だけとなったのである。それは、国連パレスチナ難民救済事業団（UNRWA）に提供されるサービスをつくることに。UNRWAは、米国、カナダ、EU諸国を中心とした援助国によって51年に設立され、国際メディアレベルではパレスチナ大義の最も顕著な題目となっている。しかし、この政治的現実には、それが民族と民族主義アラブ政党や運動のプログラムの基本的な材料として残ったように、アラブの良心からパレスチナ解放のスローガンを消し去ることはできなかった。この民族目標は、アラブ軍事政権の第二敗北が1967年6月の敗北と来たまで、アラブ軍事クーデターで採用することができるまで その影響 パレスチナ解放のスローガンは、もはや公式アラブ政治談義の流行で亡くなっていた。

解放の目標が侵略の影響を除去するというスローガンに取って代わられたように、73年の10月戦争以降、今日まで、6月4日線、休戦ラインの遵守は、イスラエルとアラブの和解のための要求として残っている。その暫定プログラムが73年にパレスチナ民族評議会によって政治和解プログラムとして承認され、和解努力のペースとリンクし、二国家解決計画に従って独立パレスチナ国家の政治的国境として休戦ラインに依存している範囲である。休戦協定は、イスラエルと多くの攻撃や戦争、最も顕著な56年でのエジプトに対する三国同盟の侵略と82年レバノンのシオニスト侵略に参加することによってそれによって複数回破られた。

今大きな疑問：ガザ地区の抵抗勢力とシオニストの間の平静の見込みはどうだろうか。近現在提示されているものと、休戦協定によって達成されたアプローチとの間には、両者とも武装抵抗の停止を目指し、政治的解決の資格を得ることによって（暴力とテロリズムを）放棄す

るように、交点があるのだろうか。

現在パレスチナの国家プロジェクトが直面している最も顕著な危険は、パレスチナ・イスラエル紛争の中での抵抗の選択肢の排除と、67年6月4日の休戦ラインの境界線よりも低い人道的要因の圧力の下でガザ地区に計画されているものを受け入れることへの忌まわしい政治分裂の持続に基づいた休戦協定への移行である。「2 国家解

決」プロジェクトに基づいている根拠として、ヨルダン川西岸なしで、パレスチナ人の唯一の正当な代表であるパレスチナ解放機構の参加なしに一方的にガザ地区と安全保障や政治的合意をすることは、パレスチナ路線での解決の枠組みと上限をあらかじめ決めた不公平な米国・イスラエル条件の継続となるためである。



投稿日時：2022年8月16日 | 08:01 (PFLPのホームページより)

ヨセフ・マッキ

紛争理論では、内部の危機に苦しむ政府は、外部の敵との紛争や戦争をでっち上げ、それによって国民の国民感情を値踏みし、危機を海外に向け、一般国民の努力をこの敵に向けて統一させ、それらの国が苦しむ危機から生じる内部圧力を緩和させることに頼るのです。

「ペロシ、アル・ザワヒリ、その間にあるもの」と題した先週の講演では、中国が台湾訪問に反対し、アメリカが台湾の独立を暗に認め、分離独立を強化したと考えているにもかかわらず、アメリカのナンシー・ペロシ下院議長が台湾を訪れたことについて簡単に触れ、さらにアフガニスタンでアルカイダのリーダー、アイマン・アル・ザワヒリがアメリカの無人機によって暗殺された複雑な状況についても議論しました。

実際、アメリカが経験している内的な出来事と、ジョー・バイデン大統領のいくつかの分野におけるバランス、おそらく最も重要なのは、彼が選挙キャンペーン中に約束した、コロナの流行を速やかに排除し、アメリカ経済を健全化することを実現できないことが、アメリカ人の大統領の政策に対する支持率を低下させる最も重要な理由の一つとなっているのである。加えて、もう一つの理由は、アメリカからロシアに課せられた制裁の結果、ウクライナにおけるロシアの戦争が経済的に影響を及ぼし、ここ数十年で食料品を含むすべての消費財を含む非常識な世界的物価上昇を引き起こし、高値 エネルギー、特にガスはその前例のない欠乏によりアメリカやヨーロッパ諸国では耐え難い厳冬を迎えれ宇野でh内科という脅威を与えている事である。

ロシアへの経済制裁(ロシアはエネルギー輸出のためにルーブルを単一通貨として課し、制裁をチャンスに変えた)により、アメリカ国内だけでなく同盟国にも不安と恐怖が広がり、民主党は党勢衰退の危機に直面し。今年11月に予定されている中間選挙での敗北が予測されている。

この点で、ペロシ氏の台北訪問は、中国との対立に値踏みし、世界におけるアメリカの排他的状態の確立に努めることで、民主党、そしてアメリカ全体が海外で経験している危機を演出するものであり、それはアメリカ政権が失敗したと思われる点である。中国は今、台湾政府を、一つの中国と二つの異なる政治体制の存在を認めながら、正確には香港の人民中国への加盟後に限定して、自発的に連合を受け入れるか、台湾の中国本土への軍事的併合を強行するか、苦肉の策として二つの選択肢の間に置いている。いずれにせよ、台湾の統治者がこの危機に取り組むに値する何かを行えるとは思えない。

最悪なのは、ペロシの訪台に抗議して台湾付近で空と海の軍事演習を始めた中国が、多くの軍事アナリストが、この演習の目的は台湾返還に終始する雷撃作戦ではないかと疑っている中で、実弾を使った演習の継続を決定したことである。

そして、もし中国が台湾を回復することができれば、それは一極集中の崩壊と第二次世界大戦後の時代の終焉を意味し、プーチン大統領政権によるウクライナへの強力な軍事介入とドンバス地方への侵攻、そしてウクライナ南部への急速な進攻という強い打撃を受けた後で、バイデン政権への新たな打撃となるであろう。

同じ文脈で、バイデンは、数年前から注目されなくなっ

たアル・ザワヒリの暗殺に投資するよう働きかけ、特にアルカイダがその黄金時代にあった存在感を失っていることから、もはや米政権が関心を持たなくなったと考える人が多くいたようだ。そして、彼の居場所に関するアメリカの公式説明を受け入れるならば、この男は「タリバン」の同盟者によって命の保証を受け、彼の追跡はもはやアメリカにとって関心がないことを告げられた可能性も排除できないのである。

ブッシュ政権が2001年に対テロ戦争を宣言して以来、過去数年間の経験から、アメリカがテロ組織のリーダーについて知っていることに特化した目標の銀行が存在することが確認されています。彼らの多くは殺されたが、暗殺の中で最も存在感があったのは、アブ・ムサブ・アル・ザルカウィ、オサマ・ビンラディン、アブ・バクル・アル・バグダディ、アイマン・アル・ザワヒリの暗殺であった。

いずれも、暗殺のタイミングを支配した政治的事情と切



投稿：2022年8月27日 | 10:23 (PFLPのホームページより)

マヘル・アルターヘル博士

殉教の21周年にあたり、私たちは、かつて、今も、そしてこれからも私たちの心と体に残る、パレスチナとアラブの指導者であり闘士である、最も真実で最も貴重で勇敢な男、騎士アブ・アリ・ムスタファを誇りと栄光をもって思い起こす。パレスチナ解放人民戦線の前書記長であり、犯罪者シャロンの決定による裏切りによって暗殺された。シャロンは、この指導者がもたらす危険を取り除くために、イスラエル国内の内閣で決定を下したが、彼は誠意、寄与、犠牲、勇気、反抗のモデルを体現している。

忘れられない日、2001年8月27日、パレスチナの土地で、レジスタンスはラムッラーの彼の職場でイスラエルの飛行機によって爆撃された。

半世紀にわたり、パレスチナとアラブの大衆は、彼を、挑戦、苦難、逆境に直面しても折れず、退かない、タフで頑固な戦士として知っている。

私が初めてアブ・アリ・ムスタファと会ったのは、1972年にベイルートでであった。彼は、ジョージ・ハバシュ博士の副書記長で、彼は34歳で、私は19歳だった。戦線の中央総委員会の会議に出席していたこの会議では、レジスタンスとレバノンの状況、パレスチナ革命

の状況について、さかんに議論された。ヨルダンを出発してから 極めて謙虚なスピードで心に入り込み、初対面の人に深い印象を与える指導的カリスマ性を持った人を目の前にして、この人への憧れと感謝を初対面の時から感じていたのである。

1982年のイスラエルによるレバノン侵攻後、戦線の司令部はベイルートからダマスカスへ移り、私は戦線政治局書記という新たな責任を担うことになった。アブ・アリとは長年にわたって親密な関係を築き、仕事上の付き合いだけでなく、友情も育んできた。私は、この人物、この偉大な民族的体躯、そして彼のユニークな個性を構成する要素を知っていた。

アブ・アリは、仕事に対して非常に組織的で、単純で、昼前から午後にかけて長い時間働くと言えるでしょう。一番最初に出社し、一番最後に退社する。彼は愛と謙遜以外には同志と接することがなく、彼と一緒に働く同志は、仕事を管理する上で私たちは家族であり、一つの家族であると感じている。同志との関係に高い温かみがあるため、すべての同志が熱意と信念を持って仕事をし、単に日常的な任務や作業を遂行するだけでなく、チームとして、また高邁な理念や目標を達成するために働く闘う家族としての強い意志を持っている。

最高レベルの謙虚さと簡素さを享受していた時期には、確固たる姿勢で、時間内に仕事を完了させるために最高の真剣さと鋭さで仕事を追求した。高い倫理観を持

ち、いかなる特権も拒否し、禁欲的で生活の見栄に誘惑されず、衣食住も質素であった。アラブの偉大な闘士である創設者のジョージ・ハバシュ博士が自主的に辞任した後、彼が戦線の書記長になったとき、アルジャジーラの「国境なき戦い」の司会者、アーメド・マンスール氏が、書記長に就任したアブ・アリー・ムスタファとドーハで対話したい、と電話をかけてきたのを覚えている。当初は謝罪しようとしたが、この対話の必要性を説得された。パレスチナの人々に自分の新しい任務を示し、自分のビジョンや考えを提示するために、彼は納得して行ってくれたのですが、この訪問には私も同行したいと言い、一緒に旅をしたのですが、旅の前日に彼に電話をして、旅の仕事の前借りとしてまとまったお金を取りたいと伝えました。金融 50 ドル前金しかし、それでは足りないと言われ、100 ドル前金を受け取ったのです。

彼が殉教した時、私たちは外郭団体の政治局会議に出ているが、突然入ってきた同志の一人が、イスラエルの飛行機がアブ・アリー・ムスタファを暗殺したというニュースが通信社から報道されていると言って、驚いたことがある。私たちは深い悲しみに包まれ、大きな驚きと衝撃を受けた。彼は私たちのリーダーであっただけでなく、私たちにとって、彼は長年一緒に仕事をしてきた友人、兄弟、同志であり、たくさんの出来事や思い出があり、シリア、レバノン、ヨルダン、パレスチナ、世界の多くの国から連絡が入り始めた。私たちは、深く激しい悲しみと同時に、怒りの感情も感じました。そして、私たちの偉大な殉教者、そして私たちの民族のすべての殉教者に応え、復讐しなければならぬという挑戦をしました。

実際、祖国の英雄的同志たちから反響があり、40 日経過する前に、過激派シオニスト観光大臣レハバム・ゼエ

パレスチナ日誌

6月15日

- ・エルサレム、占領当局は、ワディ・アルホムス近隣の家を取り壊した。
- ・西岸で6人のパレスチナ人が逮捕された。
- ・EUは、イスラエルに、旧大陸にガスを供給するように求めた。
- ・占領軍は、ガザの農民と羊飼いをターゲットにした。
- ・サルフィットの北のマルダで占領当局は9件の建設停止の通知を渡した。
- ・占領当局は、エルサレムの二軒の家を取り壊した。
- ・ジェニンの近くの軍事検問所で、元獄中者と他の青年を占領軍は逮捕した。
- ・ナブルスのアズモウトとディアルハタブの201ドノムの土地を入植地計画のターゲットにした。

ヴィを清算することで対応がなされたのである。

アブ・アリー・ムスタファを暗殺するというイスラエルの最高レベルの決定は、この例外的な指導者が祖国に戻った後、パレスチナの地で果たしている大きな役割、人民戦線の条件を固め、組織と闘いを構築するという内部レベルでの役割のいずれについても、慎重に追跡調査し監視した結果であることは疑いようがない。イスラエルは、この偉大な指導者が果たする役割の重要性と危険性に気づき、ある決断を下し、シャロンは暗殺の直後に、危険な人物が排除されたことを発表したのである。

1948年の占領地、ヨルダン川西岸、ガザ地区、エルサレム、シリア、レバノン、ヨルダン、そしてすべての亡命先、ディアスポラ、遠方の亡命先のパレスチナ人大衆は、この偉大なアラブの民族的偉人のために行進し、象徴的な葬儀を行い、喪主協議会を設立したが、それはパレスチナ人および世界の自由民に降りかかった損失の大きさを認識していたためであった。

シオニストは、殉教者アブ・アリーの暗殺によって、人民戦線が弱体化し、その役割が縮小されることを想像していたのである。この偉大な闘争のシンボルの殉教者が、人民戦線に痛みを伴う痛烈な打撃を与えたことは間違いない。しかし、この打撃は人民戦線を弱めるどころか、闘争と抵抗を継続するための力と決意を強め、怯で裏切りによる暗殺に続く20年間の行軍これが私が確認したことである。

誓約、司令官、そしてあなたの殉教の21周年に、私たちは誓約を新たにします、あなたが闘い、戦った目標と原則の完全な達成まで、闘争と抵抗の道を歩み続け、私たちと民族と国家の記憶に永遠にとどめるといふ、誓

- ・ヘブロンで、アルアワダとラヤンの2人ホハnst者に連帯する座り込みが行われた。
- ・アメリカは、バイデンの訪問が終わるまでパレスチナ人との情勢をエスカレートさせないように要求。

6月16日

- ・イスラエルは、アリエル作戦の容疑者を起訴した。
- ・イスラエルは、ガザへの許可の割り振りを増加させることを決定。
- ・フランス外務省は、エルサレム市民の被拘束者サラハ・アルハモウリイの状況を追跡していることを確認した。
- ・占領軍は、マサフェールヤッタの家々の間で軍事演習を行った。
- ・ガザの海で、3人の漁師が、占領軍の銃弾で負傷した。
- ・西岸で、占領軍は、11人の市民を逮捕し、金を没収した。
- ・ベツレヘム、占領当局は、アルハデールの12軒の家の建設の停止と取り壊しを通知した。

- ・アルアクサの警備員が3年の刑の判決を受けた。
- ・米国国務省：我々は、エルサレムの領事館の開館にコミット。
- ・占領軍はシリワンで、2人の青年を逮捕した。
- ・カナダ外務省2国家解決を支持し、入植を拒否することを確認。
- ・ルーテル協会世界連邦評議会は、占領を終わらせることを呼びかけた。

6月17日

- ・占領軍は、ジェニンの西で、4人の市民を逮捕し、武器を押収。
- ・ヘブロンで、入植者たちが市民を攻撃
- ・人民戦線ジェニンの殉教者を追悼し、抵抗の激化を呼びかけた
- ・民族浄化：占領当局は、マサフェールヤッタで17軒の家の取り壊しを決定・
- ・占領軍は、カフルアルデークの町で市民たちを攻撃した。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、11人が占領軍の銃弾で負傷。
- ・赤三日月社、ナブルスでの占領軍との対峙で80人が負傷した。
- ・イスラム協力会議、ジェニンでの占領軍による市民の暗殺を非難
- ・ヘブロンで、占領軍に銃撃

6月18日

- ・入植者たちは、ヘブロンで家の所有者を攻撃し、家を攻撃した。
- ・ガザの海で、イスラエルの攻撃で漁師の船がダメージを受けた。
- ・ハマス：ガザへの爆撃は、エルサレムと西岸への侵略の延長である。
- ・占領軍機が、ガザを爆撃し、アシュケロンに向けたミサイルをアイアンドームが迎撃した。
- ・占領軍は、バブ・アルムウドで。少女を逮捕。
- ・入植者たちは、アブデル・カリム・アルジャバリの家を攻撃した。
- ・入植者たちは、エルサレムのブルジ・アルルク機構に銃撃
- ・アルミリハットの人々の間で負傷者と逮捕
- ・イスラエルは、ガザへの2000の追加許可を凍結した。
- ・ヘブロン東での占領軍との衝突で、窒息者

6月19日

- ・テルアビブ：入植者が、48年領内の2人のパレスチナ人を轢いた。
- ・ワディアラと西ガリリーで大規模な作戦。
- ・ロシアは、イスラエルのダマスカス空港の爆撃を非難するように安保理に呼びかけた
- ・入植者たちは、アルアクサを襲撃
- ・占領軍は、ベツレヘムの5人の市民を逮捕した。
- ・青年がカルキリヤの分離壁の近くで占領軍によって撃ち殺された。
- ・ヘブロン西で、二人の労働者が負傷、一人は銃撃された。

6月20日

- ・ Beit-Umar で、入植者たちの挑発のあと入り口で衝突。
- ・ヘブロン南の座り込みテントに行こうとした4人の青年を逮捕。
- ・ヘブロンジャベール近隣で市民の複数の家を入植者たちが攻撃。
- ・西岸での逮捕、2人の青年が負傷。
- ・占領軍は、南部ガザの分離壁から侵入した2人の青年を逮捕
- ・入植者が、ベツレヘムの東の土地を更地にした。
- ・ナブルスの西で、入植者たちの攻撃で青年が負傷。
- ・ガantz：イスラエルは、米国に率いられた防空連合を形成。
- ・イスラエルは総選挙にクネセットを解散し、ラビドを首相に指名
- ・旧市でイスラエル軍は、2人の少年を逮捕
- ・アブディスで衝突、少年が逮捕された。
- ・イスラエル軍は、エラド作戦の容疑者の家を取り壊す命令にサインした。

6月21日

- ・イランは、科学者たちの暗殺を計画したモサドの応報印を逮捕したと明らかに。
- ・西岸で逮捕キャンペーン
- ・入植者たちが、ナブルスの南のカルユト村を攻撃
- ・ジェニン、占領当局は、一軒の家の取り壊しと、8軒の建設の停止を通知。
- ・エルサレムのバブ・アルムウドで3人の少年を逮捕した。
- ・サルフィットの近くで、入植者が刺した青年が死亡。

6月22日

- ・ベツレヘムの西で、占領軍は、3軒の農業部屋を取り壊した。
- ・エルサレム。アルイサウイヤとベイトハニアで取り壊しと更地化。
- ・ニリンの獄中者アルカワジャの家を占領当局は取り壊した。
- ・占領軍は、ラス・カルカル村への西の入り口を破壊した。
- ・ガザの東で、占領軍は、パレスチナの農地に放火
- ・占領軍は、ヘブロン3人の市民を逮捕
- ・マサフェールヤッタで、占領軍は連帯活動家を攻撃しそのうち2人を拘束した。
- ・イスラエルは、2000人まで、ガザの許可の割合を再増加

6月23日

- ・ガantz：必要とあれば、我々はベイルート、サイダ、スールに入る。
- ・西岸で、捜索と逮捕のキャンペーン
- ・占領当局は、ハワラ検問所で、殉教者ガーネムの遺体を引き渡した。
- ・ヒズボラの書記長、ハマスの政治局の局長の訪問を受けた。
- ・占領軍のデヘイシャキャンプへの急襲で、3人が負傷し、うち一人は重傷。
- ・占領当局は、エルサレムの獄中者フォウアド・アルカクを釈放した。

6月24日

- ・ナブルスの村々で占領軍との衝突で、82人が負傷した。
- ・占領軍は自治政府にアブアクレの銃弾を引き渡すように再度要求
- ・国連：アブアクレはイスラエルに暗殺された。
- ・マサフェールヤッタで、占領当局は、建設中の家の建設の中止を通知
- ・ジェニンの衝突で若者が撃たれ、窒息者が。
- ・入植者たちが、占領軍の防衛のもと、アルバドハンを襲撃した。
- ・シリワドの町で、占領軍は若者を銃撃し逮捕した。
- ・ヨルダン国王、中東版 NATO を支持すると表明。
- ・カルキリヤの東で、入植者たちは、市民の車を攻撃した。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、9人の若者が占領軍の銃弾で負傷。

6月25日

- ・イスラエル軍：我々は、アブアクレの国連の捜査結果を拒否する。
- ・48年領内のアルザルカで若者が殺された。
- ・ジェニンの南で、占領軍との対峙で、負傷者。
- ・抗議の弾圧で、占領軍は、キサン村の祖議会の議長を拘束した。
- ・ラマラの東で、入植者たちが、車に放火し、青年を叩いた。
- ・占領軍は、ジェニンの南、で4人の若者を逮捕した。
- ・イランとEUは、交渉の再開で合意

6月26日

- ・トルカラムで、占領軍の銃弾で、3人の市民が負傷した。
- ・占領軍は、Beit-Umar で、2人の釈放された獄中者を逮捕した。
- ・シリワンのファタハの書記とエルサレムの活動家が逮捕された。
- ・西岸で逮捕と捜索のキャンペーン
- ・数十人の入植者がアルアクサを襲撃。

オリーブの会通信 第22号(通巻28号)

- ・ 占領当局は、フサンの人々に許可を妨害し、店を閉鎖すると脅迫
- ・ 入植者たちがマダマ村を攻撃。
- ・ イスラエルの参加のもとで、パハリーンで、ネゲブ首脳会議の運営委員会の最初の会議が開催された。

6月27日

- ・ ヨルダン渓谷のイブジクで市民のための施設を取り壊した。
- ・ 占領当局はアラキーブを203回目の取り壊しを行った。
- ・ ジェニンでの武装衝突で2人が負傷、西岸の逮捕キャンペーン
- ・ ハニエは、ペイルートで諸派の書記長と指導者たちと会見した。
- ・ イスラエルは、西岸の分離壁の防衛のための特別軍事旅団を形成。
- ・ ウムアルハムで、家の取り壊し
- ・ UAE: 入植活動止めることは、二国家解決を救うために必要。
- ・ アルカセムがイスラエル人の捕虜一人の健康状態について発表

6月28日

- ・ 占領当局は、ヘブロン南のアルツワナ村の3軒の家の建設を停止するように通告
- ・ シリワンの通りからパレスチナの旗が没収された。
- ・ シリワンで3人の少年を逮捕
- ・ 占領軍は、ベツレヘムの西で農業部屋を取り壊した。
- ・ 米軍の中央コマンドがシリアのイドリブでアルカイダと同盟している指導者を暗殺。
- ・ 11人の市民が逮捕。武器が発見された容疑で
- ・ 占領当局は、サルフィットで、家の取り壊しと13の家の建築を停止するように通知した。
- ・ 占領軍は、ヘブロンで青年を逮捕
- ・ 占領軍がヘブロン西部の農室とカラマツを取り壊す
- ・ 入植者たちは、アルハデールの町で10ドナムの土地を占拠した。
- ・ ムスタラビンがジェニンの商店を襲い、市民を逮捕
- ・ 占領当局は、エルサレムでバラックと商業施設を取り壊した。
- ・ アルカセムが、ガザで捕虜となっているイスラエル兵の写真公開
- ・ 占領当局は、ベツレヘムの西、ワディ・フキン f r o o d ノムを更地にし、20本のオリーブの苗木を根こそぎにした。
- ・ 占領軍は、アルアクサを襲撃し、作戦実行未遂容疑で青年を逮捕

6月29日

- ・ 占領軍はヘブロン南で活動家を逮捕し二台の車を没収した。
- ・ 包囲よ封鎖のあと、刺殺未遂の容疑でアルアクサで若者を逮捕
- ・ ジェニンで、占領軍に撃たれ、殉教者。
- ・ 西岸で、13人のパレスチナ人が逮捕された。
- ・ 占領当局は、カルキリヤの東で、水のタンクの取り壊しを通知。
- ・ 占領軍は、ジェニンの南の軍事検問所で、市民たちの動きを妨害。
- ・ ジェニンキャンプで、殉教者ムハマッド・メリの葬儀が行われた。
- ・ 占領裁判所は、シムリン一家の退去のケースの聴聞を延期。
- ・ 赤十字は、ハマスに病気のイスラエル兵を釈放するように呼び掛けた。
- ・ ガンツ: イランとヒズボラは、unifil の活動を傷つけるようとしている。

6月30日

- ・ ナブルスの衝突で、子供と幼児を含む22人が負傷。
- ・ イスラエルの占領警察が、アルアクサモスクの2人の警備員逮捕。
- ・ イスラム聖戦は、ジェニンで彼らの指導者の占領軍による逮捕を非難。
- ・ 6か月でガザの海で、132回の銃撃と36人の逮捕。
- ・ クネセツH解散し、選挙の日を設定した。

- ・ 占領警察は、カップルを逮捕し、車の中で泣く二人の子供を放置。
- ・ 占領軍の司令官が、ヨセフの墓の襲撃を確保している時に負傷。
- ・ 西岸で、イスラム聖戦の指導者を含む12人の市民を逮捕した。
- ・ ヨセフの墓への入植者の襲撃への反撃で、3人の入植者と17人の市民が負傷した。

7月1日

- ・ イスラエル首相が外相に権限を委譲した。
- ・ 入植者たちが、フサンの150ドナムの木に放火
- ・ イスラエルのドローンがデヘイシャ難民キャンプにリーフレットをまいた。
- ・ 占領当局は、 Beit・ジャラの青年を尋問のために召喚した。
- ・ EU委員会は、パレスチナの団体に対する資金提供の停止を解除した。
- ・ 占領軍は西岸で4人の市民を逮捕。
- ・ 教会世界評議会: イスラエルのパレスチナ人に対する差別は、公然化し、組織化されるものとなった。
- ・ シェイクジャラの週例デモの弾圧と逮捕者
- ・ ヘブロン中央で、イスラエルの銃弾で、3人が負傷。
- ・ 抗議者が、ベツレヘムへの南の入り口をブロックした。
- ・ カフル・カッダムの行進の弾圧で17青年が占領軍の銃弾で負傷。
- ・ 占領軍は、 Beit・ウマールで情勢の葬儀を攻撃した。

7月2日

- ・ ナブルスの北西クレナイカの3人の市民を占領軍が逮捕した。
- ・ ダモウン刑務所で獄中者サーディア・ファラジャラが殉教
- ・ テンプル・グループが、バブ・ラハマ教会での礼拝とアルアクサ南部の壁の修復を呼びかけた。
- ・ タルトスの南で、イスラエルの侵略の結果シリア人たちが負傷
- ・ ジャバの衝突で、実弾で青年が負傷。

7月3日

- ・ イスラエル: ヒズボラの3機のドローンをガスリグへの途中で迎撃した。
- ・ イスラエル軍の代表が、モロッコの軍事演習に参加した。
- ・ 占領軍は、取り壊しの準備のために、カフル・ライの町の入り口を計測した。
- ・ イスラエルはネゲブの6件のブリキの家を取り壊した。
- ・ 西岸での逮捕
- ・ イスラエルで選挙キャンペーンが始まった。
- ・ ハーレツ紙占領軍は、アメリカの立ち合いのもと、銃弾を調べた。
- ・ 占領軍は、ガザ国境で、2人の青年を逮捕し、武器を押収したと主張。
- ・ 占領軍は、 Beit・ウマールの入り口を兵舎に変えた。
- ・ トルカラムの東で、入植者たちは高齢の農民を攻撃。
- ・ ジェリコの北で青年が占領軍に銃撃された。
- ・ ジェニンで銃撃され、負傷したパレスチナ人が殉教。
- ・ 占領当局は、ヘブロン南の2件の家の取り壊しを通知した。
- ・ 占領軍は、エルサレムの青年を逮捕した。

7月4日

- ・ 24時間以内の検査の結果。銃弾は自治政府にもどされた。
- ・ イスラエル軍は、レバノン国境の入植地の周辺に壁を計画。
- ・ 西岸の諸県での襲撃で、逮捕と武装衝突
- ・ 一か月内に占領軍は、ガザの15人の市民を逮捕した。
- ・ アルサワラ・アルシャルキヤの村で県瀬中の設備が取り壊された。・ イサウイヤで、襲撃がり、4人の青年が逮捕された。

- ・ヘブロンで、労働者が占領軍に銃撃された。
- ・ヤッタの東で、占領当局は、2軒の家と井戸を取り壊した。
- ・占領当局は、ヨルダン渓谷で、建設の中止の通知を配布した。

- ・イスラエルは、ヒズボラが北部戦線を熱くしようとしている。
- ・デュラでの占領軍との衝突で、7人の市民が実弾で負傷した。
- ・ハマス；米国の捜査はイスラエル側に偏向しており、国際的な捜査を呼びかける。



[一節]

革命と復讐のために立ち上がれ
 革命と復讐のために立ち上がれ
 ハリケーンのように上昇し、
 ハリケーンのように立ち上がる
 火で敵と戦い、
 火で敵と戦おう！

とどろき声で叫びました。

：とどろき声で叫んだ

'' 革命 ''

'' 革命 ''

'' 革命 ''

'' 革命 ''

「革命は自由のアプローチだ！」

「革命は自由のアプローチだ！」

[詩 2]

驚いたことに、アラブ人のエルサレムから
 びっくり！エルサレムのアラブ人から！

アナスから、恨みと疲労

恨みと疲れを忘れる者！

、風と戦利品のような最後のc

前回、略奪禁止、略奪禁止！

ああ、文法と怒りの馬よ、

ああ、文法と怒りの馬よ！

、 フロー

、 フロー

、 フロー

、 フロー

炎の川が流れた！

炎の川が流れた！

[3節]

席から立ち上がって広がる

立ち上がって広げよう！

水、岩、いびきの中で

水の中、岩の中、いびきの中！

あなたの土地で、香水に入る

あなたの土地で、香りを入力してください

剣のように跳びはね、

そして飛び跳ねる剣のような閃光！

、そして決して

、そして決して

、そして決して

、そして決して

そして、石から誕生を始めましょう！

そして、石から誕生を始めましょう！

[4節]

革命と復讐のために立ち上がれ

革命と復讐のために立ち上がれ

ハリケーンのように上昇し、

ハリケーンのように立ち上がる

火で敵と戦い、

火で敵と戦おう！

とどろき声で叫びました。

：とどろき声で叫んだ

'' ! 革命 ''

'' ! 革命 ''

'' ! 革命 ''

'' ! 革命 ''

「革命は自由のアプローチだ！」

「革命は自由のアプローチだ！」

この曲は youtube 聞くことができます。作者不詳で、マルセル・ハリーフエなどいろいろな歌手が歌っています。

おいしいパレスチナ



ズッキーニのトマト煮込み Kousa mahshi

アラビア語の mahshi は「詰め物」という意味なので、kousa mahshi はズッキーニの詰め物ということになる。アラブ人全般、特にパレスチナ人は肉から野菜までも詰め物にするのが大好きです。(私たちも、詰め物をする野菜に肉を詰めます;)。野菜の詰め物は、私の大好きな料理の一つです。ズッキーニ、ナス、ニンジン、タマネギ、キャベツ、ブドウの葉、ジャガイモ、トマト、そしてキュウリも詰め物にすることができます。マくり抜き器という特殊な道具を使って、野菜を丸くくり抜きます。でも、私たちは無駄なことはしたくないんです。また、オリーブオイルで玉ねぎやにんにくと一緒に炒めて、パンと一緒に食べることもあります。

野菜の詰め物は、その時々旬の野菜によって季節感を出すことが多い。春のクーサ(アメリカの市場ではホワイトズッキーニやメキシカンスカッシュと呼ばれることが多い)は、小さくて色が淡く、とてもやわらかい。パレスチナ家庭では、詰め物をする野菜は小さければ小さいほどいい。私の小指ほどの大きさのズッキーニに詰め物をする人を見たことがありますが、料理人はそれをとても誇りに思うのです。

パレスチナ料理やアラブ料理で使われるスタッフィング(詰め物)には、いくつかの種類があります。スパイス肉とタマネギのスタッフィング
米(他の穀物でも可)とスパイスの効いた肉の詰め物
ベジタリアンのためのハーブライス詰め(私のお気に入りの一つです)詰め物は、野菜や肉によって異なります。子羊の丸焼きのような大きな肉に、カボチャの詰め物やブドウの葉の詰め物など、野菜の詰め物をしたものも見

たことがあります。そう、私たちは詰め物をするのが大好きなのです。

このレシピでは、クーサにスパイスの効いた肉と米を詰め、濃厚なトマトスープで煮込みます。シナモンとスパイスの甘い香りが漂う、素朴で美味しい一品です。

準備時間: 60分

調理時間: 60分

6人分

肉と米のフィリング

ラムまたはビーフ、鶏肉(牧草飼育のもの)1ポンド

洗った短粒米2.5カップ(注参照)

シナモン 小さじ1杯

オールスパイス 小さじ1

ナツメグ 小さじ1/4

カルダモン 小さじ1/4

塩・黒胡椒 適量

オリーブオイル 大さじ4(分量外)

野菜類

ズッキーニ(アメリカではメキシカン・カボチャと呼ばれる)12~14本(約4ポンド)(長さ5~6インチ、直径1~2インチのもの)

注意: いろいろな野菜を使って構いませんが、同じような大きさのものを使うと、均等に調理できます。

私は、カボチャとナスと一緒に使うのが好きです。

ソース

2カップ チキンブロス 私は水を使いますが、それでもかまいません。

クラッシュトマト 28オンス

トマトペースト 大さじ1

生のトマトをピューレ状にしたものを使ってもよい(祖母のお気に入り)。

ニンニク 3片

ベイリーフ

塩・コショウ 適量

作り方

まず、ズッキーニの芯を取ります。

** ズッキーニの芯抜きは、ネットでも中東の食料品店でも簡単に手に入ります。

この方法は、多くの野菜の詰め物に使われているので、覚えておくとよいでしょう。この技は、多くの野菜の詰め物に使われているので、練習しておくとよいでしょう。練習が必要です。まず、茎を切り落とします。リングの芯抜きのような専用の道具があると、作業がしやすいです。かぼちゃを彫るように、1/8インチの厚さの壁ができ、底に到達するまで、芯を取り続けます。この作業を数回繰り返すと、ズッキーニが削れて穴があき、具を入れるのに十分なスペースができる。なるべく穴を開けないように注意する。リングの芯をお持ちの方は、それを使ってください。果肉は捨てないでください。このレシピでも使います。

米を洗う。

お米のでんぷん質が取り除かれ、よりふっくらとしたお米が炊きあがります。

肉を炒める:(オプション) 私はこの方法で炒めるのが好きです。また、洗ったお米に生のお肉を入れることも

できます。

厚底のフライパンで油を熱し、肉とスパイスを入れる。少し焦げ目がついて崩れるまで炒める。肉はソースで仕上げられるので、最後まで焼く必要はない。

深めのボウルに詰め物の材料をすべて入れ、よく混ぜる。(私はこの時、手を使います)。

ズッキーニに指で優しく詰め物をする。詰めすぎは禁物! クーサの3/4くらいまでしか詰めず、詰め込まないようにする。炊飯中に膨らむように余裕を持たせておく。

大きめの鍋にオリーブオイル(大さじ2)を入れ、ズッキーニの果肉とニンニクを炒める。その後、火を弱めて数分煮込み、味を馴染ませる。味を調える。ズッキーニを丁寧にスープに浮かせ、ご飯が炊きあがり、ズッキーニが柔らかくなるまで50~60分煮る(スープがズッキーニを覆っていることを確認する)。野菜がバラバラにならないように注意する。

調理中、時々様子を見て、ソースにスープや水が必要であれば、加える。深めの器に盛りつけ、トマトソースをかけていただく。Sahtain! とはアラビア語で“ボナペティ”、直訳すると“二つの健康をあなたに”という意味です。

守ろう! オリーブの木を カンパのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合(UAWC)に送ります。

郵便振替

記号番号: 00960-2-303500番
名称: オリーブの会(オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名(店番): 〇九九店(099)
預金種目: 当座
口座番号0303500



9月9日グーグルとアマゾンの労働者がイスラエルとの10億ドル規模の契約に抗議



9月10日世界中の活動家が「#BoycottPUMA Global Day of Action」をマーク



9月10日日本でも大阪でプーマ店前でBDSジャパンによる抗議行動が行われた

今号の内容

- イスラエルによるパレスチナ 6NGO の閉鎖に抗議する・・・1
- ドイツのアッパーズ大統領の発言への異様な反応に抗議する・・・2
- 残忍なテロリストの侵略と団結した勇敢な抵抗・・・3
- 「エルサレムの剣」の放棄と勝利の可能性・・・3
- 67年の休戦ラインの境界線・・・7
- 内なる危機から逃れるために、外を向く・・・8
- アブアムスタファ殉教21周年にあたって・・・9
- パレスチナ日誌・・・10
- パレスチナの愛した歌・・・13
- おいしいパレスチナー・・・14
- トピック・・・16



8月9日ナブルスで、イスラエル軍によって殉教したアブナブルシとその同志たち



イスラエルと日本、相互の軍事協力を強化する協定に調印